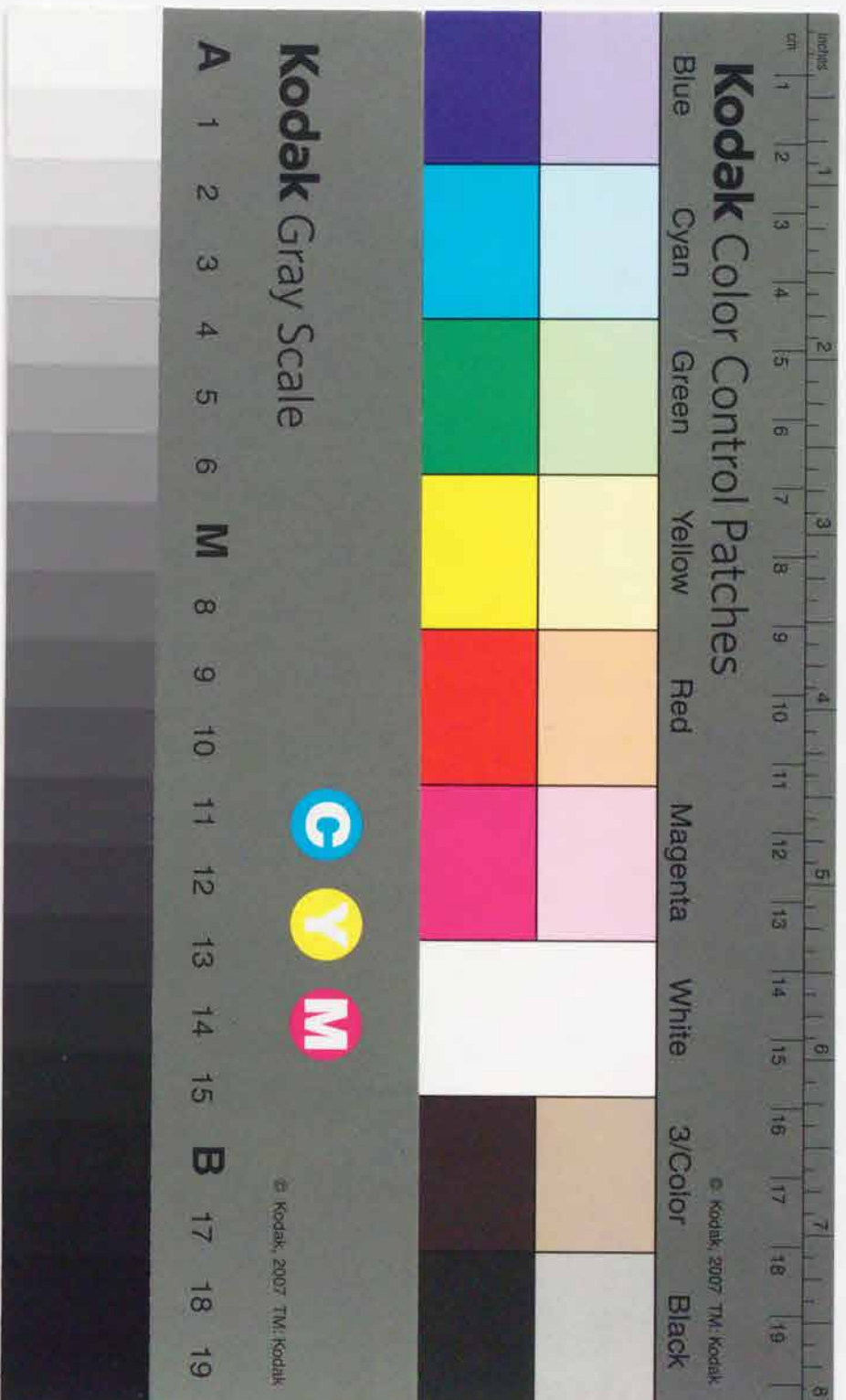




義理記巻第一目録

一 一やと林^{ミヤ}にちの事

ときしむにたれ事

半若くしゆ入の事

常しりん坊^ガの事

半若きつ補^ホまゝの事

吉^{キチ}が奥^{ウチ}にたれ事

一やあつゝあつゝゆふの事

義経記巻第一

うやむや都落の事

北朝のじうとぬまは田村のひやまなるにすま

とてはうやむやのうらゐのうらゐのうらゐのうらゐ

ぬまのうらゐのうらゐのうらゐのうらゐのうらゐ

わうやむやのうらゐのうらゐのうらゐのうらゐ

海うやむやのうらゐのうらゐのうらゐのうらゐ

の子源九郎のうらゐのうらゐのうらゐのうらゐ

名お軍のうらゐのうらゐのうらゐのうらゐ

年二月廿七日のうらゐのうらゐのうらゐのうらゐ

て京の軍のうらゐのうらゐのうらゐのうらゐ

赤井文庫



夫人^{うき}が^{うき}は^{うき}も^{うき}目^{うき}い^{うき}なる^{うき}く^{うき}の^{うき}ま^{うき}の^{うき}ま^{うき}
 は^{うき}平^{うき}家^{うき}と^{うき}神^{うき}ふ^{うき}は^{うき}よ^{うき}に^{うき}伊^{うき}國^{うき}よ^{うき}る^{うき}る^{うき}ま^{うき}ん^{うき}ぐ^{うき}の^{うき}
 十^{うき}郎^{うき}よ^{うき}る^{うき}も^{うき}世^{うき}と^{うき}ま^{うき}り^{うき}西^{うき}東^{うき}海^{うき}道^{うき}の^{うき}ま^{うき}の^{うき}ま^{うき}の^{うき}
 一^{うき}て^{うき}う^{うき}れ^{うき}る^{うき}平^{うき}若^{うき}の^{うき}年^{うき}ま^{うき}で^{うき}母^{うき}の^{うき}り^{うき}る^{うき}る^{うき}
 きの^{うき}の^{うき}わ^{うき}ひ^{うき}の^{うき}ま^{うき}も^{うき}ん^{うき}海^{うき}の^{うき}ま^{うき}ひ^{うき}人^{うき}ま^{うき}れ^{うき}
 一^{うき}は^{うき}清^{うき}國^{うき}帝^{うき}い^{うき}ん^{うき}り^{うき}て^{うき}の^{うき}ま^{うき}ひ^{うき}る^{うき}ま^{うき}の^{うき}ま^{うき}の^{うき}
 と^{うき}二^{うき}は^{うき}一^{うき}て^{うき}い^{うき}て^{うき}い^{うき}に^{うき}井^{うき}井^{うき}の^{うき}ま^{うき}の^{うき}ま^{うき}の^{うき}ま^{うき}
 くれ^{うき}に^{うき}あ^{うき}り^{うき}び^{うき}る^{うき}ま^{うき}の^{うき}ま^{うき}の^{うき}ま^{うき}の^{うき}ま^{うき}の^{うき}ま^{うき}
 じん^{うき}の^{うき}ま^{うき}の^{うき}ま^{うき}の^{うき}ま^{うき}の^{うき}ま^{うき}の^{うき}ま^{うき}の^{うき}ま^{うき}
 一^{うき}は^{うき}一^{うき}は^{うき}一^{うき}は^{うき}一^{うき}は^{うき}一^{うき}は^{うき}一^{うき}は^{うき}一^{うき}は^{うき}



ひらきあはしにがは二年にがはまのふたふた
 りのふたふたにがはまのふたふたにがはま
 かにがはまのふたふたにがはまのふたふた
 まのふたふたにがはまのふたふたにがはま
 すまのふたふたにがはまのふたふたにがはま

かきあはしにがはまのふたふたにがはま
 かにがはまのふたふたにがはまのふたふた
 まのふたふたにがはまのふたふたにがはま
 すまのふたふたにがはまのふたふたにがはま
 かきあはしにがはまのふたふたにがはま
 かにがはまのふたふたにがはまのふたふた
 まのふたふたにがはまのふたふたにがはま
 すまのふたふたにがはまのふたふたにがはま

義經一

[illegible]

[illegible]

かゝる處まで。それよりいさづきで
とてまじぬ。よたりに日暮してしんくのう
とぞいのりたる

吉江が奥羽北谷の事

かくて年々もこれぬきいし年々すききで成る多門
 の世も入るありてきようてだうもさういふ
 二条よぶつと名と吉のつととそ
 一々も毎年具列よ下る金わさ人なりさうび
 らよとていじなりさうる。それと多門はありて現
 ちいしてあつたさうさうびたさうひ人とななりて
 わさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

武蔵人かくもいふまゝに大にわすれはる
 きよなぐれ見よ唯一なるきみこそわ
 けいなり馬のうの後の君のたしなり
 あつたひでひとてまよふはた馬の
 のたふとていふまゝにたふの大二
 十六ヶ國とていふ人々常のたふ
 なる人とストーあせむ井のたふ
 人のみれとお國のりあるをひで
 けいなりなりなりなりなりなり
 ののののののののののののの
 ののののののののののののの

しるべきは海軍に在りては代官とて一。海軍に在りては
せしむるは海軍に在りては代官とて一。海軍に在りては
の者なり。海軍に在りては代官とて一。海軍に在りては
が名なり。海軍に在りては代官とて一。海軍に在りては
目の。海軍に在りては代官とて一。海軍に在りては
くれは。海軍に在りては代官とて一。海軍に在りては
せしむるは海軍に在りては代官とて一。海軍に在りては
まよて。海軍に在りては代官とて一。海軍に在りては
門。海軍に在りては代官とて一。海軍に在りては
と。海軍に在りては代官とて一。海軍に在りては
か。海軍に在りては代官とて一。海軍に在りては

まよて。海軍に在りては代官とて一。海軍に在りては
と。海軍に在りては代官とて一。海軍に在りては
た。海軍に在りては代官とて一。海軍に在りては
か。海軍に在りては代官とて一。海軍に在りては
あり。海軍に在りては代官とて一。海軍に在りては
戦。海軍に在りては代官とて一。海軍に在りては
年。海軍に在りては代官とて一。海軍に在りては
三。海軍に在りては代官とて一。海軍に在りては
せ。海軍に在りては代官とて一。海軍に在りては
わ。海軍に在りては代官とて一。海軍に在りては
せ。海軍に在りては代官とて一。海軍に在りては

しやあつゝあるは出の事
あまつゝ是とす^いひてまうふよとあらむ
^か_せといふものこゝんなまわられりとも
かくそのまんを十八万との境と十方との國は
さめ。八方とのばそめて坂東より出。八ヶ國の源氏
よんごる國なるに野々の國なるものと先
づいて十二方ととりまじ。大方とはなぐ十方まで
い伊豆國と兼なりなり。十方とせば本當あり
なり。残りあらこの國よりして越えらるる。
けだく山のせいとしほして越中。能登。加賀。越前
のぐんびやるとさびたぐ十方と一ぬくわたらの中山





吉次と招ての法ひ多う宿れもの腹筋をせ切く誰人か
しひけん。くみりつゝ一ひわつたりなりといふんとお
がゆかりもくもふなりといふ初はあぐべ部
よがりともなふ大いなる東海よりぞりんと
らんどもすむいともふらちありてきりなり
ゆきといふんするものなり。海にあらんも仁義礼智
後にもづれかん林にてきのんかやわし
熱んまぐさ事るれば東より海氏おんど
のる國なり。いふ義のすゑともいへばそのいふ
あぐりりるべ。白川の国とだ。いふいふでひ
かりのふたれい雨のうつやらん風の吹ぬによきは

